

どなたでもご参加いただけます。お誘いあわせてお越しくださいね。



第43回日本重症心身障害学会学術集会
市民公開講座のお知らせ（参加費 無料）



うまれてきてよかったと思える社会作り

日時 平成29年9月30日土曜日 13時20分～16時00分

場所 仙台国際センター会議棟 大ホール(仙台市営地下鉄東西線 国際センター駅下車 徒歩1分)

当事者の方へ 当日は、なのはな会とつどいの家の方々がサポートして下さいます。会議棟1階小会議室2を休憩室としました。12時10分には開場しますので、早めにお越しになり経管栄養、休憩、更衣などで利用することができます。駐車場は、地下またはせんだい青葉山交流広場をご利用ください。

プログラム

13時20分～14時20分

ユニバーサルファッションショー（ファッション文化専門学校 DOREME、陽光福祉会エコー療育園）

14時30分～16時00分

特別講演「生きることは、聴くこと、伝えること ～表現のちからを信じて～」

演者 大越 桂（詩人）

副島賢和（昭和大学医療保健学部）

座長 小沢 浩（島田療育センターはちおうじ）



重症心身障害の方々は病気や障害のために生きづらさを抱えていますが、日々携わる私たちはその幸せをいつも願っています。そして、その笑顔が実は私たちの幸せでもあることに気づきます。お互いに支え支えられる関係から、うまれてきてよかったと思える社会を作りたいですね。

例えば、障害の重い方々も私たちと同じようにファッションを楽しみたいと思っています。しかし、身体の不自由さから衣服の着脱が簡単でないことや、デザインよりも機能的である（例えばおむつ替えが楽にできるなど）ことが重要視され、介助する側の利便性や機能的性が優先され選択肢も少ないと思います。また、成長して大人になっても、身長が100～130cm、体重も20～30kgくらいの方が多く、この体格に合う市販の服は子ども用のものしかなく、年齢相当の色彩やデザインを選ぶことができません。そこで、7人の方にモデルさんになってもらい、着てみたいファッション（スーツ、ドレス、着物など）をファッション文化専門学校 DOREME の学生さんや先生と一緒に考えて作りました。当日は皆さまの前でお披露目したいと思います。

特別講演「生きることは、聴くこと、伝えること」では、仙台市在住の詩人、大越桂さんと昭和大学医療保健学部の副島賢和先生による対話形式で、いのちと言葉についてお話しいただきます。大越さんは、出生時体重819グラム、脳性まひや弱視などの障がいや病気と折り合いながら生きてきた重症心身障害者です。「自分は周りが思うより、分かって感じているのに伝えられない。私はまるで海の底の石だった。」喉頭気管分離術を受けた後に13歳から支援学校の先生の指導のもと筆談を始めました。今は介助者の手のひらに字を書いて会話をします。「生きることを許され、生きる喜びが少しでもあれば、石の中に自分が生まれる。」副島先生は昭和大学病院の院内学級の先生です。病気の子どもである前に、一人の子どもとして向き合ってもらいました。「もっと不安も怒りも表に出していいよ。思いっきり笑って自分の呼吸をしていいんだよ」と子どもをそばで支えてくれます。皆さまご存知の小沢浩先生も絡んで、楽しい時間となるでしょう。



第43回日本重症心身障害学会学術集会 会長 田中 総一郎
(あおぞら診療所ほっこり仙台 院長)